

「行政はあなたの命を守れない」

田中信孝著

行政はあなたの命を守れない。シヨッキングな書名だ。著者は球磨川の水害の恐ろしさを身をもって知る人吉市民に選ばれた元市長で、その言葉は重い。行政のかじを取った者ならではの視点で、行政や住民が災害とどう向き合い、命を守っていくべきかを提言している。

著者は2007年4月、人吉市長に初当選した。08年9月には、国が球磨川支流の川辺川に建設を予定していた川辺川ダム計画を「白紙撤回すべき」と表明。豪雨時、球磨川上流の市房ダムの放流で被害が拡大したとする市民の不安を指摘し、「想定以上の降雨にダムが対応できないとすれば危険。さまざまな防災策を組み合わせる講じることが大切」と述べた。ダム治水の最大受益地である人吉市のトップの判断は反響を呼ぶ。その後、蒲島郁夫知事がダム建設反対を表明し、計画は止まった。

市長を2期務めた後、著者は熊本大大学院に入学。全国の水害、防災復興策を研究し、論文にまとめた。古里の防災へいかに反映させるか思案していた矢先の20年7月、熊本豪雨が発生。多くの命が失われた。蒲島知事や国は流水型ダムを採用し、再び川辺川へのダム建設にかじを切った。一方、著者はダムの問題

元市長の目で防災策提言

点をさらに検証し、市長時代に提唱した総合的な防災策に考えを巡らす。その集大成が本書だ。

想定外の豪雨で、ダムへの流入が増えて緊急放流される事態が全国で相次いでいるとして、ダム頼りの防災に疑問を投げ掛ける。熊本豪雨の死者の多くが球磨川に流れ込む支流の氾濫によることも指摘。支流の洪水対策や、上流の山林整備など複合的な防災策、自治体による災害予測などの必要性を訴えている。

また、住民が自分事として早めに避難する「自主的事前避難」の大切さも説く。ただ、「人々が災害とどう向き合うかは、すべて首長の意識の問題に帰結する」と著者。

巻末には、室町時代以降の球磨川水害年表を13ページにわたり掲載。これも住民に球磨川のことを知ってほしいという著者のこだわりだろう。

評・木村彰宏(熊日記者)

熊日出版・1650円



たなか・のぶたか 1947年人吉市生まれ。2007年4月から人吉市長を2期8年務める。会社社長。元和歌山大防災研究所客員准教授、元熊本大法学部非常勤講師。